

■教科書検討の観点からみた特色

※青字の「⇒P.000」は教科書のページ数です。

教科書検討の観点からみた特色			教科書検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所	本書の主な関連箇所
教科書検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所				
⇒取り扱っている内容は、 教育基本法 に適合しているか。 教育基本法第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	我が国の国土及び世界の諸地域に関する基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、日本や世界の地域的特色を多面的・多角的に考察する態度を養うことで、幅広い知識と教養を身に付けることができるようしている。 ◆「 2編2章 世界の諸地域」「3編3章 日本の諸地域 」では、州・地方の地域的特色を確実に捉えられる構成になっている。まず、①州・地方を視覚的に捉え、②州・地方の概要を大観し、そのうえで③主題学習・動態地誌的学習を進め、④単元のふりかえりで主体的・対話的な問い合わせ活動に取り組むことで、単元全体で主体的・対話的で深い学びを実現するようしている。 ⇒ 2編2章（ヨーロッパ州／P.58-71など）、3編3章（近畿地方／P.192-205など） ◆地域の特色の理解に必要な教材を系統的に配置するとともに、地図・写真・グラフなどの図版を豊富に掲載している。	⇒ P.10-15	⇒取り扱っている内容は、 学習指導要領 に示す目標・範囲に適合しているか。	◆学習指導要領に準拠し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする思考力・判断力・表現力等の向上を図る学習を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する内容になっている。	⇒ P.6-21	
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	学習のねらいと地理的な見方・考え方を明確に示し、思考力・判断力・表現力等の向上を図りながら、主体的・対話的で深い学びを実現する構成となっている。 ◆本文ページには、地理的な見方・考え方を示すコーナーや思考力・判断力・表現力等の向上を図るコーナーを設けて、生徒が意欲的に学習に取り組み、主体的・対話的で深い学びを実現するようしている。 ◆世界や日本の人々の生活場面や労働の様子を読み取ることができる写真を多数掲載し、自主・自律の精神を養い、職業・生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養えるようしている。	⇒ P.8-9, P.14-15 ⇒ P.17,25, P.27,31	⇒道徳教育との関連から、取り扱う内容はどのようにになっているか。	◆教科書全体が個人の尊重の考え方を基本理念として構成されており、取り上げられている教材は、人権尊重・男女共同参画などの観点から適切に選択されている。 ◆広い視野で考え、身近なところから課題を見出し、主体的・対話的な学び、地理的課題・地域の課題（社会的課題）の追究、「 3編1章 地域調査の手法」「3編4章 地域のあり方 」の学習などを通じて社会参画への関心や意欲を養い、持続可能な社会の形成に参画する態度を養えるようにしている。	⇒ P.35 ⇒ P.18-19	
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	社会の形成に参画するための学習活動を充実するとともに、協調して取り組む学習活動の場面では、責任をもって自分の考えを伝え、他者の考えを認め、他者を敬う態度を身に付け、社会の一員としての自覚を培えるようしている。 ◆世界や日本の地域の特色を捉える際に、人権を考える教材を豊富に取り上げている。 ⇒ P.39, 75, 199, 229, 267など ◆「 3編1章 地域調査の手法」「3編4章 地域のあり方 」では、自分の言葉で表現し、他者の考えを認め、そこから自分の考えを発展させることができるようにしている。 ◆「 3編4章 地域のあり方 」では、地域の課題を見出し、地域の在り方を構想する具体例を紹介することで、社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようしている。	⇒ P.35 ⇒ P.18-19 ⇒ P.18-19	⇒基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るために、どのような創意・工夫をしているか。	◆本文は原則1授業時間=見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのかが 学習課題 で明確に示されている。また、右ページの側注欄には 確認コーナー が設けられ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問い合わせが提示されており、習得した知識・技能を用いて文書化・言語化できるようにしている。 ◆本文は、十分な文字量を確保し、平易な表現で、地理的事象や地理的概念を丁寧に記述している。 ◆見方・考え方コーナーを設け、学習課題の解決に向けての手がかりとなる地理的な見方・考え方の例を示している。 ◆見開きページの右端に インデックス を設け、学習している単元を常にわかるようにして、全体の中に位置づけて理解しながら、学習を進めることができる。 ◆地理+α（コラム）や 自由研究 （特設ページ）では、地理的分野の学習を掘り下げる具体的な内容を取り上げて、理解を深めることができる。 ◆ スキル UP では、地理的分野の学習に必要な地理的技能を6種類に整理し、生徒の発達段階に応じて系統立てて習得できるようにしている。 ⇒ P.VII, 25, 87, 122-125, 132-133など ◆資料を用いた活動を示す 資料活用コーナー を設けており、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができる。 ◆教科書内で関連する事項どうしを結び付ける 参照ページコーナー で、多面的・多角的な見方をすることで、学習内容の定着を図っている。 ◆連携コーナーでは、小学校社会科の学習や歴史的分野・公民的分野の学習とのつながりが示され、生徒の理解を確かなものにするとともに、習得した知識を活用できるようにしている。	⇒ P.8-9 ⇒ P.6-7, P.8-9 ⇒ P.8-9,32 ⇒ P.8-9, P.17,29 ⇒ P.16	
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	世界や日本、身近な地域における環境問題や環境保全、持続可能な社会、災害・防災といった諸課題の現状と改善に取り組む人々の努力について考えさせる内容を随所に配し、生命や自然を大切にする態度を育てることができるようにしている。 ◆グローバル化する国際社会において、持続可能な社会を作っていく上で取り組まなければならない様々な地理的課題や地域の課題（社会的課題）を取り上げている。 ⇒ P.43, 163 ◆環境問題や環境保全、持続可能な社会について、系統立てて学習できるようにしている。 ⇒ P.66-67, 94-95, 104, 174-175, 262など ◆災害・防災について系統立てて学習できるようにしているとともに、具体的かつ実践的な活動を取り上げることで、生命や安全の確保に主体的に取り組むことができるようしている。 ⇒ P.132, 144-151, 190, 230-231, 244-247など	⇒ P.12-13 ⇒ P.27 ⇒ P.20-21	⇒創意と工夫	◆学習課題の理解を深めるため、地理的な見方・考え方を働かせる問い合わせを 深めようコーナー として設け、習得した知識を定着させ活用することで、思考力・判断力・表現力等の向上を図ることができる。 ◆トライ、 スキル UP 、 アクティビティ 、 チャレンジ地理 なども含めて、毎時間、思考力・判断力・表現力等の向上を図る場面を設定し、随所で生徒が自分の言葉で表現できるように構成されている。 ⇒ P.5, 94-95, 122-125, 218-219, 261など	⇒ P.8-9,14 ⇒ P.14-15, P.16-17	
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考え、我が国や身近な地域を愛する心を養えるようしている。また、国際理解を深めることができ内容を豊富に取り上げ、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する態度を育てることができるようにしている。 ◆我が国における伝統・文化の現状と、それを守り未来に継承していく人々の取り組みについて、随所で取り上げている。また、現代文化についても積極的に扱っている。 ⇒ P.172-173, 196-203, 225, 240-241, 253など ◆世界の多様な文化の学習を通して、文化の意義や影響を理解し、多文化共生社会の重要性を認識できるようしている。 ⇒ P.23-42, 55, 75, 90-91, 110-112など ◆我が国と諸外国との関係、国際協力、国際社会における支援、紛争解決や平和の希求などの教材を豊富に取り上げている。 ⇒ P.55, 70-71, 78-80, 173, 182-183など ◆日本の領域についての学習では、日本固有の領土である北方領土・竹島の領土問題を的確に取り上げるとともに、日本固有の領土である尖閣諸島には領土問題は存在していないことを明記している。また、日本の領域をめぐる諸課題の解決に向けて、どのような取り組みが必要かを考えさせる内容になっている。 ⇒ P.16-19	⇒ P.26 ⇒ P.27,28 ⇒ P.29	⇒地理的見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びを実現するために、どのような創意・工夫をしているか。	◆各章末や2編2章・3編3章各節末の単元全体にかかる問い合わせ（○○州（○○地方）をふりかえる、 アクティビティ 、 チャレンジ地理 ）、「 3編1章 地域調査の手法」「3編4章 地域のあり方 」などで、主体的に学習に取り組む態度、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える力、互いのよさを生かして協働する力などが培えるように構成されている。	⇒ P.13,15, P.18-19	
⇒取り扱っている内容は、 学校教育法 に適合しているか。	◆学校教育法第30条第2項に示された「基礎的な知識及び技能の習得」、「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の育成」が重視されている。	⇒ P.6-21	⇒内容の選択	◆単元の学習における習得・活用・探究の学びの過程のなかで、地理的な見方・考え方を繰り返し働かせるようになっている。例えば、「 2編2章 世界の諸地域」「3編3章 日本の諸地域 」では、各見開きページにおいてそれぞれ適切な見方・考え方を働かせながら、州・地方の概要を大観し、そのうえで 主題学習・動態地誌的学習 を進め、最後に単元のふりかえりや アクティビティ 、 チャレンジ地理 に取り組むことで、単元全体で主体的・対話的で深い学びを実現するようしている。 ⇒ アクティビティ（2編2章・3編3章各節末）、チャレンジ地理（P.70-71, 94-95, 151, 218-219）	⇒ P.10-15	
				◆本文との関連が的確で、世界や日本の地域的特色を具体的にイメージできる地図・写真・グラフ・しくみ図等の図版が豊富に掲載されている。特に地図については、読み取りや比較のしやすい地図表現を施することで、読図を容易にしている。 ◆「 2編2章 世界の諸地域」「3編3章 日本の諸地域 」においては、各種の 主題地図 ・ 雨温図 を、体裁・配置・サイズを統一して掲載することで、地域的特色の理解・比較を容易にしている。 ⇒ P.164・166（九州地方）、192・194（近畿地方）、220・222（関東地方）など	⇒ P.10-13, P.33 ⇒ P.10-11	
				◆世界や日本の今日の課題について、生徒が主体的に考察することができる教材を取り上げている。本文や写真などに加えて、 地理+α （コラム）や 自由研究 （特設ページ）で、地理的分野の学習を掘り下げ、学習内容の理解を深めていくことができる最新の地理的トピックを具体的に紹介している。 ⇒ 地理+α（P.79, 93, 183, 187, 255など）、自由研究（P.56, 80, 104, 176, 260など）	⇒ P.17, P.24-29	

教科書検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所	教科書検討の観点	内容の特色	本書の主な関連箇所	
内容の選択	⇒持続可能な社会、持続可能な開発目標（SDGs）にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆持続可能な社会を実現するための諸課題を地球的課題や地域の課題（社会的課題）として取り上げ、諸課題を自らの問題として捉え、その解決をめざして行動できる態度を培うことができるよう構成している。 ⇒ P.66-67, 77, 94-95, 188-189, 258-259など ◆「3編3章 日本の諸地域」の章末でSDGsの17の目標を示し、これまでの学習をSDGsの視点からふりかえるとともに、「3編4章 地域のあり方」で地域の課題を見出し、地域の在り方を構想することに備えることができる構成となっている。 ⇒ P.262, 263-273	⇒ P.12-13 ⇒ P.18-19, P.27	⇒歴史的分野や公民的分野との連携について、どのような配慮がなされているか。	◆歴史的分野・公民的分野との連携コーナーを教科書の随所（本文ページ脚注部）に設けている。歴史的分野との関連では、地理的事象の歴史的背景を、歴史的分野との学習順序にも配慮しつつ確認できるようになっている。公民的分野との関連では、現代社会の諸課題等について、公民的分野の学習につなげていくことができるようになっている。 ⇒連携コーナー（歴史・公民／P.18, 74, 166, 198, 272など）	⇒ P.34
	⇒環境問題や環境保全にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆地球規模の環境問題や環境保全を地球的課題として取り上げるとともに、日本における環境問題や環境保全を地域の課題（社会的課題）として取り上げ、これらの諸課題を自らの問題として捉え、その解決をめざして行動できる態度を培うことができるよう構成している。 ⇒ P.66-67, 104, 174-175, 197, 258-259など	⇒ P.12-13, P.27	⇒カリキュラム・マネジメントについて、どのような配慮がなされているか。	◆学校ごとの生徒の姿や地域の実情に合わせ選択・活用できるように各種の教材が設けられている。 ◆3編では、「3編1章 地域調査の手法」の調査結果を念頭に置きながら「3編2章 日本の地域的特色と地域区分」「3編3章 日本の諸地域」の学習を進め、その結果を踏まえて「3編4章 地域のあり方」で地域の課題を見出し、地域の在り方を構想する構成となっている。このような構成を取ることで、教科書の事例を参考にしながら、生徒の姿や地域の実情に応じた地誌学習や地域調査を進めることができるよう配慮している。	⇒ P.24-29 ⇒ P.18-19
	⇒災害・防災にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆「3編2章 日本の地域的特色と地域区分」では、様々な災害や防災・減災（自助・共助・公助）について、体系的に詳しく学習することができる。また、具体的かつ実践的な活動を取り上げることで、生命や安全の確保に主体的に取り組むことができるようになっている。 ⇒ P.144-151 ◆「3編3章 日本の諸地域」では、災害・防災に関する各地方の諸課題を学習することができるよう構成している。 ⇒ P.190, 199, 209, 230-231, 242-247など	⇒ P.20-21 ⇒ P.20-21	⇒学習の深化と発展、生徒の家庭学習に対して、どのような配慮がなされているか。	◆「3編1章 地域調査の手法」（事例地域：京都市伏見区）と「3編4章 地域のあり方」（事例地域：京都市）は、修学旅行の事前準備や当日の現地での活動など、教師や生徒が京都を訪れる際にも活用することができる。 ◆デジタルマークを設け、発行者のウェブサイト上で公開している写真・動画や資料等の教材に生徒が主体的にアクセスできるようしている。 ⇒ P.VII, 28, 44, 57, 140など ◆トライ、深めよう、資料活用、アクティビティなど、随所に問い合わせや活動を設けて、生徒が主体的に学習を行うための教材やシンキングツール等を豊富に紹介している。 ◆各章末や2編2章・3編3章各節末には、○○州（○○地方）をふりかえる、アクティビティといった単元全体にかかる問い合わせや活動を設け、自学自習や自己評価に対応している。 ◆巻末に用語解説を設け、地理的用語を6種類に区分してわかりやすく解説するとともに、その用語が重要語句になっているページを参照できるように工夫している。 ⇒ P.280-283	⇒ P.18-19
	⇒伝統・文化にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆我が国における伝統・文化の現状と、それを守り、未来に継承していく人々の思いや取り組みについて、随所に写真、地理+a（コラム）などを設定している。 ◆各地方に生きる人々の視点に立って、各地に息づく文化を取り上げるとともに、現代文化についても積極的に取り上げている。 ⇒ P.172-173, 196-203, 225, 240-241, 253など	⇒ P.26 ⇒ P.26	⇒文章および図版等の表現は正確か。	◆本文や地図・写真・グラフ・しくみ図等の図版類すべてにわたり、内容はもとより用語の一つ一つにも細心の注意を払うとともに、きわめて正確でかつ最新の資料を選択している。	⇒ P.30-31
	⇒我が国の国土と歴史への理解と愛情にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆我が国や諸外国の国旗について、そこに込められた人々の思いや、象徴として尊重され大切に扱われていることを明記している。 ⇒ P.6-7 ◆日本の領域についての学習では、日本固有の領土である北方領土・竹島の領土問題を的確に取り上げるとともに日本固有の領土である尖閣諸島には領土問題は存在していないことを明記している。また、日本の領域をめぐる諸課題の解決に向けて、どのような取り組みが必要かを考えさせる内容になっている。 ⇒ P.16-19	⇒ P.29	⇒カラーユニバーサルデザイン（CUD）や特別支援教育への対応や、表記・表現について、どのような工夫や配慮がなされているか。	◆特別支援教育・カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるよう、配慮が行きわたっている。 ◆本文は、原則1授業時間=見開き2ページとなっており、紙面は学習内容を理解しやすいように、授業や生徒の思考の流れに即したレイアウトで構成されている。 ◆見開きページの右端には、インデックスを設けて、生徒が学習している単元を常に確認できる工夫がなされている。 ◆文字は、視認性の高さで実績のあるユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用している。 ◆本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避けて、具体的に記述している。 ◆漢字の使用は、細心の注意を払い、小学校6年生以上で学習する漢字や、固有名詞などは見開き2ページの初出にふりがなを付し、読みまちがいのおそれがあるものや地名・人名等については教育漢字であっても極力ふりがなを付して、読み取りやすくしている。 ◆ふりがなは、大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。 ◆重要語句は太字にして、全てふりがなが付されている。また、学習上重要な語句は、複数の単元で必要に応じて繰り返し重要語句にして、確実な習得を図っている。	⇒ P.8-9 ⇒ P.24-29
	⇒平和や国際理解にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆世界と日本の地域的特色の学習を通して、多文化共生社会の重要性を認識し、我が国や郷土を愛する心情を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育てる内容になっている。 ⇒ P.55, 70-71, 78-80, 173, 182-183など	⇒ P.28	⇒装丁にはどのような工夫がなされているか。	◆表紙の装丁は、地理的分野の学習内容を想起させる写真や教科書中に登場するキャラクターのイラストを配置し、親しみやすく、かつ生徒の学習意欲を喚起するものとなっている。	⇒表紙
	⇒東京2020オリンピック・パラリンピック、大阪・関西万博にかかる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆東京2020オリンピック・パラリンピック及び2025年開催の大坂・関西万博について十分に取り扱っており、多文化共生社会や持続可能な社会について生徒の興味・関心を促すことができる。 ⇒ 東京2020オリンピック・パラリンピック（P.220, 232）、大阪・関西万博（P.204）	⇒ P.10-13, P.24	⇒大きさ・判型について	◆見開きページの情報量を充実させるため、ワイドなAB判が採用されている。	⇒ P.8-9
組織・配列・分量	⇒世界の諸地域学習、日本の諸地域学習は、どのような構成になっているか。	◆「2編2章 世界の諸地域」「3編3章 日本の諸地域」の構成を可能な限り統一しており、生徒の学習のしやすさに配慮している。 ◆最初の4ページで、州・地方を①写真等で視覚的に捉えて単元の導入とし、②自然環境や人文環境の概要を大観している。続く8ページで、州における主題や地方における考察の仕方をもとに、③主題学習・動態地誌的学習を行い、地域的特色を追究している（一部の州では4ページ）。最後の2ページで、④単元のふりかえりを行い、学習を掘り下げる自由研究、学習のまとめにあたる○○州（○○地方）をふりかえるに加えて、主体的・対話的な問い合わせや活動であるアクティビティ、チャレンジ地理で様々なシンキングツールを取り上げている。このような構成とすることで、州・地方の地域的特色を確実に捉え、単元全体で主体的・対話的で深い学びを実現するようになっている。 ⇒ アジア州（最初の4ページ／P.44-47、続く8ページ／P.48-55、最後の2ページ／P.56-57） ⇒ 九州地方（最初の4ページ／P.164-167、続く8ページ／P.168-175、最後の2ページ／P.176-177）	⇒ P.10-13 ⇒ P.10-15	⇒耐久性や人や環境への配慮がなされているか。	◆製本は、堅牢なじろ縫じを採用し、針金綴よりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。また、良質で軽い紙を使用して重量をおさえるとともに、十分な強度で裏写りが少なくなるよう配慮され、表面も汚れを防ぐよう加工している。 ◆印刷は、植物油インキを使用している。また、製本には化学物質過敏症の原因物質は使用せず、再生紙を使用して人体や環境への影響を少なくしている。	⇒ P.32-33
	⇒配列や分量は適切か。	◆配列は、学習指導要領の構成に合致した3編構成で、詳細な学習に陥ることのないよう、学習内容の構造化と焦点化を図っている。また、103時間の授業時数で学習が完結でき、学習指導要領が示す地理的分野の授業時数115時間からいって妥当な分量である。	⇒ P.42	⇒拡大教科書について	◆本文が18, 22, 26ポイントの3種類の拡大教科書の発行が予定されている。	⇒ P.32
内容の程度	⇒小学校社会科との連携や、生徒の発達段階に対して、どのような配慮がなされているか。	◆小学校社会科との連携コーナーを教科書の随所（本文ページ脚注部）に設けるとともに、各章の導入ページで「小学校で学習した内容」を示し、小学校社会科における地理的分野に関わる学習内容を、学習した学年も含めて再確認できる構成にしている。 ⇒ 連携コーナー（小学校社会科／P.140, 156など）、小学校で学習した内容（P.43, 119など） ◆主体的・対話的な問い合わせや活動であるアクティビティ、チャレンジ地理におけるシンキングツールの配列、地理的技能の習得のためのスキルUPの配列は、発達段階を考慮したものとなっている。 ◆教科書冒頭では、トライで生徒の興味・関心を高めながら思考力・判断力・表現力等の向上を図る活動をさせ、その後資料活用、深めようで徐々に思考力・判断力・表現力等の内容を深めていくなど、発達段階を考慮した構成としている。	⇒ P.34-35 ⇒ P.15, 16 ⇒ P.16-17	⇒デジタル教科書・教材について	◆教科書と同一の内容を収録し、拡大・リフロー、機械音声読み上げ、色の反転・配色設定、総ルビ表示等の特別支援にも効果的な機能をもつ学習者用デジタル教科書や、動画・アニメーション表示などの豊富なコンテンツを収録した指導者用デジタル教科書（教材）、学習者用デジタル教科書+教材の発行が予定されている。	⇒ P.46-47